

## 1. 多職種連携会議の経緯

平成28年度から、むなかた地域の医療と介護の連携を効果的にすすめるため、在宅医療・介護における現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行うことを目的として、宗像市と福津市の委託事業による、宗像市・福津市在宅医療・介護連携推進事業 多職種連携会議が設置されました。

委員は、在宅医師、歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、地域医療連携室、通所介護、保健所、地域包括支援センター、総勢15名で構成されています。

### (1) 平成28年度の取り組み

#### ① 課題の抽出

各団体から多職種連携上での課題について意見をあげてもらい、それをカテゴリーごとに整理しました。その結果、「支援者間の連携不足」、「退院支援」、「急変時の対応」、「社会資源の不足」、「制度の理解不足」の5つに分類することができました。

#### ② 課題解決のための対応策検討

カテゴリーに分類された5つの課題に対し、各団体から「課題を解決するために取り組めること」、また、その「対策案」について意見を抽出しました。

その結果、各団体から圧倒的に多くあげられたものは「支援者間の連携不足」であり、解決策として、各団体から共通した意見は「サービス担当者会議は、関係者が集合できる唯一の場であり、それを有効的に活用することが一番望ましいのではないか」ということでした。

#### ③ サービス担当者会議の効果的要件

効果的にサービス担当者会議が行われるためにどうしたらよいか。どのようなことに留意して、今後取り組めばよいかを委員で協議し「サービス担当者会議の効果的要件（あるべき姿）」を提示しました。

そこから「まずはサービス担当者会議の現状を把握する必要があるのではないか」ということが導き出されました。

### (2) 平成29年度の取り組み

#### ① サービス担当者会議の現状を把握するための調査実施

「サービス担当者会議の現状を把握するための調査」を介護支援専門員、地域包括支援センター職員対象に実施しました。

そこからやはり、サービス担当者会議が効果的に行われていなかった実態が見えてきました。また、介護支援専門員の困難感や多職種への要望等も明確になりました。(調査結果については、別紙参照)

#### ② サービス担当者会議に関する研修会

多職種を対象に研修会を実施しました。介護支援専門員対象の調査結果をふまえ、「サービス担当者会議」について理解を深めるための講義や、地域リーダーに

よる模擬担当者会議を実施し、多職種が専門職としてどのように関わられるのか、専門職としての役割等について協議を行いました。

③ より具体的な解決策へ

多職種から出された課題に対する解決策案は、前年度から協議していましたが、今年度実施した「サービス担当者会議」に関する調査や多職種を対象とした研修会を実施したことで、より具体的な解決策案が各委員から提示され、次の3つが導き出されました。

案1 サービス担当者会議に伴う留意事項の作成

案2 情報ツールの作成（各職種で情報収集・提供するためのツール）

（支援に関わる多職種で情報を共有するためのツール）

案3 スキルアップ（多職種全体、個々の職種、各事業所）

④ サービス担当者会議に伴う留意事項の作成

多職種連携上の課題に対する解決策案として、上記案1から案3でよいか、各団体に持ち帰って意見を求めました。

その結果、「サービス担当者会議に伴う留意事項」と「情報ツール」の作成を行い、多職種全体で活用していこうということになりました。

⑤ 次年度に向けて

「情報ツール」については、実際の活用に伴いマニュアル等詳細事項を検討する必要があるため、次年度引き続いて作成いたします。また、このツールは在宅部門の多職種で活用する予定であるため、平成28年度からの課題「退院支援」に取り組んでいく予定です。

(3) 平成30年度の取り組み

① 多職種連携ツールの作成

- ・多職種連携ツール作成ワーキンググループ会議

ツール作成のためのワーキンググループを結成しました。

多職種連携ツール案（多職種連絡シート、在宅用共用ファイル）及び、活用に向けての留意事項(手順書)について協議を実施。また、各委員がツールを実際に試用して、不具合等がないかチェックする期間を設けました。試用結果をふまえ、最終修正を行いツールが完成しました。

- ・多職種連携会議にフィードバックし、実際の活用に向けて多職種の方に普及・啓発を実施しました。

② 多職種連携上の課題「入退院支援」について具体的解決策の検討

平成28年度当初の退院支援の課題と、地域医療連携室等職員連絡会の中で出された「病院と介護支援専門員の連携上の課題」をふまえ、具体的解決策を検討した結果、具体的取り組み提案として、「病院機能の見える化シートの作成」、「宗像・福津エリア退院支援の流れ」の活用があげられました。

そこで、「病院・有床診療所の入退院支援連携窓口の見える化シート」のたたき台を作成し、活用に向け各団体へ意見を求めました。

#### ④ 「入退院支援」について具体的解決策の検討からみえてきたこと

その1：連携の際の窓口は見えている

- ・地域医療連携室等職員連絡会からの意見  
介護支援専門員等との連携は概ねできており、介護支援専門員も病院の連携窓口は知っているのではないか。
- ・介護支援専門員からの意見  
平成28年度当初は、「病院の窓口がわからない」といった課題があげられていたが、この3年間の間で随分連携がすすんだ。制度上、連携しないと加算も取れない状況になっている。

その2：「宗像市・福津市医療・介護情報資源ガイド」がうまく活用できればよいのではないか。

上記意見をふまえ、新たに見える化シートを作成するより、資源ガイドを活用したほうが良いのではないかとこの意見で、全委員一致しました。

#### ⑤ 「宗像市・福津市医療・介護情報資源ガイド」活用に向けた普及啓発の実施

平成30年12月、宗像薬剤師会、むなかたケアマネ・ネットワーク、ふくふくネットワーク、福津市および宗像市地域包括支援センターへ、資源ガイド活用に向けた説明を実施しました。また、各委員が各団体に向け、普及啓発を行う予定です。

### 2. 3年間を通して

平成28年度当初に出された課題に対する解決策を具体的にするための取り組みを実施してきました。

平成30年度は、課題として残されていた「入退院支援の連携」に対し、見える化シートを作成する方向で進めていきましたが、結果的に3年前の状況とは違っており、シート作成の必要までには至りませんでした。

この課題については、福岡県在宅医療提供体制充実強化事業の中で、引き続き取り組んでいく予定です。

このことより、平成28年度当初からの取り組みは、一旦終了となります。

### 3. 今後に向けて

これまでに実施してきた取り組みを評価していきます。その中で、新たな課題があれば、その課題解決に向けた取り組みを実施していく予定です。

また、各職種で課題としてあげられる事項があれば、会議の中でその都度取り上げていく予定です。